

理工系大学における多面的・総合的評価と提出書類の活用

——一般選抜における調査書活用の可能性を中心に——

山路 浩夫, 湯山 加奈子 (電気通信大学)

高大接続改革のもと、大学入学者選抜における、「学力の3要素」を踏まえた「多面的・総合的」評価の推進に向け、大学入学前の多様な学習・活動の評価を充実させることが必要となっている。

特に、受験者数の多い一般選抜において、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を含めて、多面的・総合的評価を行うことは、最も難しい課題のひとつである。本研究では、近年の本学における追跡調査の成果を踏まえつつ、入学者が出願時に提出した調査書と大学入学後に測定された各人の特性等の関係を分析し、多面的・総合的評価における提出書類活用の可能性を明らかにした。

1 はじめに

高大接続改革のもと、「学力の3要素」を踏まえた「多面的・総合的」評価の推進に向け、大学入学前の多様な学習・活動の評価を充実させることが必要となっている(高大接続システム改革会議, 2016)。

各大学の個別選抜は、平成33年度より、一般選抜、学校推薦型選抜、総合型選抜として実施される。受験者数の多い一般入試も含めて、いずれの入試区分においても、学力の3要素に係る評価の推進が求められる。

「平成33年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告」(平成29年7月公表)では、現行一般入試の課題を改善し、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価するため、調査書や志願者本人が記載する資料等の積極的な活用を促すとされる。

これまで、教育系、医療系等、対人関係を扱う比重の大きい系統・学部では、一般入試において調査書の活用が見られるが(平井, 2018)、平成33年度入試に向けて、他の学問系統も含め、一般選抜において調査書等の活用を進め、学力の3要素の多面的・総合的評価に取り組む大学が増えつつある。

他方で、主体性や協働性等の評価には、本来、多様な評価方法を組み合わせた丁寧な選抜が望まれることから、残された課題が少なくない。川嶋・山下・石倉・井ノ上(2017)は、アドミッション・オフィサーの育成、調査書の電子化、書類審査の信頼性を上げるための工夫等、制度的・人的課題への対応の必要性を指摘する。文部科学省「大学入学者選抜改革推進委託事業(主体性等分野)」では、ICTを活用した、主体性等を評価するモデルや評価尺度の開発等が続けられている(JAPAN e-Portfolio, 2017)。

受験者数が多く、実施運営上の時間的・人的制約が大きい一般選抜において、主体性・協働性等を含めて評価を行うことは、最も難しい課題である。提出書類を活用する場合でも、部活動の役職やコンテストでの受賞歴等、一瞥での把握・比較が可能な情報が重視され、学習・活動の過程を通じて育まれた能力・資質等の読み解きが置き去りとなる懸念もある。提出書類の活用、評価に関する更なる知見の蓄積が俟たれる。

2 先行研究について

提出書類は、従来から、推薦入試やAO入試を中心に活用が図られてきた。近年新たに導入された入試においても、例えば、東京大学の推薦入試では、調査書、推薦書、志願理由書に加えて、推薦書の記載等に関連する客観的根拠や資料等の提出を求めている(東京大学, 2017)。

先行研究においては、石井・橘・永野(2018)は、推薦入試で提出された推薦書と任意提出書類を対象に、キーワード選択、推薦理由、任意提出書類の関連性を分析している。井上・中村・前村・植野・立岡・岡本・大塚(2017)は、「活動報告書」を活用した、多面的・総合的評価の取組事例を紹介している。

一般入試に関しては、西郡・園田・兒玉(2018)が、一般入試における「主体性等」の評価について、規模の大きい受験者集団に対する評価環境の構築と併せて、合格ボーダー層を対象とした「段階評価」の考え方を提案している。

調査書についても、記載内容、様式、記載事項と入学後成績との関連等、様々な研究がある。脇田・北原・伊藤・井村・中田(2018)は、提出された6千

枚を超える調査書を抽出し、記載状況の把握と大学での成績との関連を検討し、記載事項の徹底したルールづくりと詳細な記述の必要性を指摘している。分析結果からは、調査書の記入内容の多くと、大学入学後の成績との間に明確な関連が認められないとする。

3 本研究の目的と着眼点

以上のように、一般選抜も含めた多面的・総合的評価の実施には様々な議論や課題がある。これらを踏まえて、本研究では、筆記試験による測定が難しい主体性や協働性等の学力要素を中心に、調査書を用いてどのような「評価」が可能であるかを検討する。

具体的には、(i)学力の3要素の多面的・総合的評価を想定しながら、出願に用いられた調査書の内容を整理・分析し、(ii)調査書に記載された内容と、大学入学後に測定された各学生(志願者)の特性との関係性を分析し、(i)、(ii)を通じて、多面的・総合的評価における調査書の活用可能性について検討する。

なお、ここでの「評価」は、合否判定に直結する「得点化」に限定せず、むしろ、得点化以外の方法で、入学前後の教育や学修に活用する可能性を念頭に置く。一般選抜においては、対面審査(面接等)を伴わない形で調査書利用が多いと想定される中で、調査書から得られる主体性や協働性等に関する情報の点数評価は、慎重を期すべきと考えられる為である。

早稲田大学は、2021年度からの一般選抜において、ウェブ出願時に、受験生本人が、「主体性」「多様性」「協働性」に関する自身の経験を振り返り、記入することを出願要件とし(得点化はしない)、記入された内容を学生調査データの一部として、入学後の教育の参考にするとしている(早稲田大学, 2018)。

なお、本稿はあくまで、高大接続改革における多面的・総合的評価に向けた、一般論としての示唆や手掛かりの考究を目的としたものであり、電気通信大学の今後の入学者選抜と直接結びついたものではない。

4 多面的・総合的評価の推進に向けた調査書の分析

4.1 分析対象

電気通信大学は、情報理工学分野の教育研究を担う国立大学であり、平成30年度の募集人員は昼間コース690名、夜間主コース30名の合計720名である。昼間コースの募集人員は一般入試が約9割(前期約54%、後期約36%)、推薦入試が約1割である。

本研究では、近年の平成A年度の一般入試において、出願時に提出された調査書を分析対象とする。

(i)調査書内容の整理・分析では、同年度の志願者総数にあたる3,500を超える調査書を対象とし、主として、「特別活動の記録」および「指導上参考となる諸事項」の欄に記載された内容・項目を取り上げる。

(ii)調査書内容と大学入学後に測定された各学生の特性との関係性分析では、入学した者で、分析に必要なデータが欠測なく得られた学生638名を対象とする。

4.2 調査書記載内容の整理・分類

はじめに、個々の調査書の記載内容を丁寧に確認し、志願者(入学した者)の活動状況、資質・能力・適性、裏付けとなる情報等について把握を行った。

大学入学者選抜実施要項等に記載方法が示されるものの、「特別活動の記録」や「指導上参考となる諸事項」の記載は、高等学校に委ねられる部分が多く、また、推薦書等と性格が異なる面もあり、記載内容、分量等の面で、高校別、個人別の差異が少なくない。そのような実情も踏まえつつ、記載項目・キーワードに着目し、大久保(2008)、石井・橘・永野(2018)等の先行研究を参考にしながら、高大接続改革における議論や本学アドミッション・ポリシーを踏まえて整理を行った。表1の通り、以下の7つのカテゴリーに大別し、記載内容を表す項目・キーワードで分類・集計した。表中の数値は、項目・キーワードの数であり、また、その記載の対象者(入学者)の数でもある。

- 1) 部活動、ボランティア活動、海外経験等(部活動や生徒会等における役職・委員歴、クラブ活動での入賞等の実績を含む)
- 2) 検定・資格取得等の実績(英検、数検)
- 3) 学内外での表彰、コンテスト等での受賞歴
- 4) 学習や活動における特徴、姿勢、態度、意欲
- 5) 学習や活動における(優れた)能力、適性
- 6) 科学的興味・関心
- 7) 基礎学力・基礎能力

1)、2)、3)は、内容、時期、達成水準等の客観的な把握・比較が行いやすい事項である。活動や実績の根底では、これを支える様々な能力や資質が育まれていると考えられ、主体性、協働性をはじめとする学力の3要素を総体的に把握する手掛かりとしやすい。

4)、5)、6)、7)は、学習や活動の過程を通じて顕在化した、特定の能力や適性等に関する情報である。記載内容の統一的評価や、裏付けの確認等、他者比較等の面で課題性がある反面、志願者個人の能力・適性に関する貴重な所見を得られる可能性がある。

4.3 調査書記載内容の分析・考察

まず、一般入試を経て本学に入学した学生の調査書について、整理・分類の結果を表1に示す。

1), 2), 3) については、前期、後期ともに、分析対象とした学生の過半数が部活動や委員会・生徒会活動に携わっており、部活動の部長・主将や学級委員等の役職を経験した者も、前期、後期ともに約25%にのぼる。抽出された個々の項目・キーワードの数をみても、対象となった前期と後期の調査書数の比率である概ね2:1に沿った割合である。

4), 5), 6), 7) については、姿勢・態度の面で、「真面目(さ)」や「継続的な取り組み・努力」に関する記載が多い。主体性・協働性領域では、「リーダーシップ」「(学習)意欲、意欲的」「責任感」「信頼感・頼りがい」の記述が多い。思考力・判断力・表現力との関連では、「論理的思考(力)」「理解力・把握能力」「判断力」等である。また、優れた能力・適性として、「持続力・持久力」「計画・企画力」が多く見られることも特徴である。

4), 5), 6), 7) に関し、前期と後期で特徴に違いのある項目としては、前期では、「社会性・社交性・公共心」「目標達成・目的意識」の記載が相対的に多い。後期では、「主体性」「論理的思考(力)」「創造性・独創性」「専門分野への興味・関心」が、前期とほぼ同数もしくは前期を上回っている。

分析対象は、高大接続改革答申(中央教育審議会, 2014)が出される以前に作成された調査書のため、キーワードは多岐にわたるものの、主体性や協働性をはじめとする「学力の3要素」に関連した所見が反映されている。記述量に幅はあるものの、総じて、具体例を示しながら特筆すべき能力・適性を記述したものが多く、調査書活用の可能性を高めるものである。

記載された項目・内容そのものも、一般入試入学者としての共通性を主としつつ、一部では、前期と後期の入試区分による差異・多様性が認められる。

また、上記と同年度の一般入試で不合格となった志願者の調査書についても、同様の分析を行っている。その結果によると、部活動・委員会活動については、合格者の調査書において、より多く記載されている傾向がある。一方、検定・資格取得や表彰・受賞歴等に関しては、不合格者の方が、合格者の記載割合を上回るものも見られる。しかし、総じて大きな差異ではない。4), 5), 6), 7) の、志願者の特定の能力や適性等に関する情報についても、合格者と不合格者の間で、大きな差異はあまり見られない。

なお、推薦入試への出願に積極的な高校から提出

された調査書は、一般入試による進学が大半の高校から提出される調査書に比べて、記載量が豊富である場合が少ない。学校毎の方針の違いにもよるが、現行の一般入試と推薦入試における調査書の位置づけの違いを反映している可能性がある。高大接続改革を背景に、入試区分を問わず調査書の積極的な活用が促され、全体的に記載量の充実が図られることになれば、一般選抜(一般入試)における多面的・総合的入試の推進にも寄与することが期待される。

表1 調査書の記載内容の整理・分類(入学者)

		前期	後期		
1)	部活動等	クラブ活動(部活動)	250	110	
		内、スポーツ系	169	83	
		内、文化系(理系含む)	81	37	
		内、理系	43	23	
		生徒会	21	15	
		委員会	192	128	
		課外活動(コンクール等)	11	7	
		部活動の部長・主将等	49	24	
		学級委員	54	26	
		ボランティア活動 海外経験等	ボランティア活動、海外経験	24	10
2)	検定・資格取得	英検	100	52	
		教検	20	11	
3)	表彰・受賞等	表彰・受賞	5	7	
4)	学習や活動における 特徴・姿勢・態度・意欲	真面目(さ)	119	60	
		継続的な取り組み・努力	152	100	
		主体性	13	12	
		リーダーシップ	30	17	
		自発的・自己管理	10	6	
		(学習)意欲、意欲的	78	51	
		積極的・積極性	95	52	
		好奇心(旺盛)・挑戦する力	27	14	
		探究心	21	9	
		集中力	33	16	
	主体性・意欲・探求力	芯の強さ	23	12	
		基本的な生活態度	51	29	
		目標達成・目的意識	10	0	
		協調性	51	20	
		責任感	79	52	
		信頼感・頼りがい	71	33	
		社会性・社交性・公共心	11	3	
		礼儀正しさ	43	17	
		社会貢献・奉仕精神	8	5	
		公平・公正	2	1	
5)	学習や活動における (優れた)能力・適性	思考・判断・表現	論理的思考(力)	16	16
		幅広い思考(力)	7	1	
		理解力・把握能力	19	14	
		情報収集力	3	0	
		判断力	17	11	
		問題解決力	1	4	
		読解力・国語力・語学力	5	5	
		コミュニケーション能力・表現力	3	2	
		行動等	持続力・持久力	77	31
		行動力・実行力	11	6	
計画・企画力	41	29			
創造性・独創性	4	6			
6)	科学的興味・関心	専門分野への興味・関心	17	26	
		理系科目への興味・関心	91	52	
7)	基礎学力・基礎能力	教科に関する学力	4	13	
		全般的基礎能力	20	3	

5 調査書の記載内容と学生の特性との関係性についての分析

5.1 部活動、検定・資格取得等と学生の特性との関係

本節では、4章で整理した調査書の記載事項のうち、まず、部活動、検定・資格取得、表彰・受賞等の実績を説明変数として、本学入学後に測定された学生の特性（目的変数）との関係を分析・検討した。

本学では、学生の主体的なキャリアデザインを重視し、学生は、キャリア教育の授業において、(株)ディスコの提供するアセスメント検査を受検している。本研究では、当該アセスメントにおける学生の特性・特徴を示す「特性データ」のうち、大学での学修と特に関連の深い8項目（創造性・活動力・積極性・社交度・統率力・思考力・持久力・協調性）に関して、調査書の記載内容との関係を分析した。

具体的には、以下(a)から(h)の各項目について、調査書で実績の記載が有るか否かによって2水準で変数化し、学生の「特性データ」8項目それぞれについて、両水準の平均値の差の検定（分散分析）を行った。

- (a) 部活動での活動歴（全ての分野を含む）
- (b) スポーツ系部活動での活動歴
- (c) 文化系部活動での活動歴
- (d) 理系部活動での活動歴
- (e) 英検資格（高校入学前の取得も含む）
- (f) 数検資格（高校入学前の取得も含む）
- (g) 部活動における部長、主将等の役職歴
- (h) 生徒会での活動歴

学生の「特性データ」8項目のアセスメント結果は5段階で示され、3を中心として、特性傾向がより強い場合には5の方向、より弱い場合には1の方向で判定されることになっている。入試区分別の「特性データ」の平均値と標準偏差を図1、図2に示す。

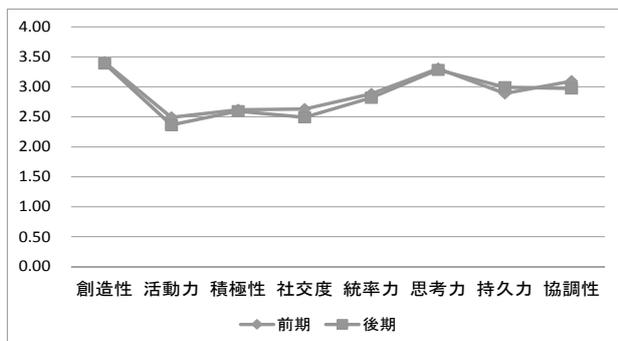


図1 入試区分別 「特性データ」の平均値

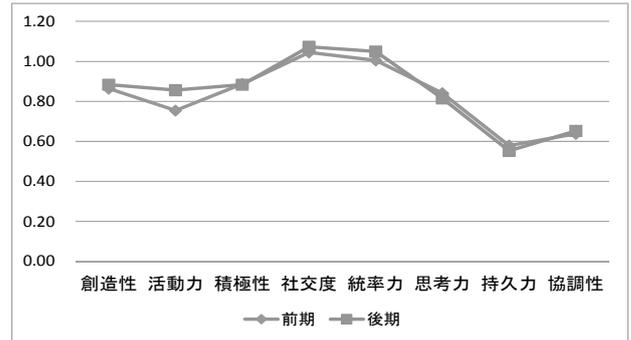


図2 入試区分別 「特性データ」の標準偏差

入試区分ごとの検定結果を、表2、3に示す。

前期入学者では、幾つかの関係性において有意な差がみられる。即ち、文化系の部活動の実績がある者は「創造性」に優れ、スポーツ系部活動の経験者は「統率力」や「社交度」に優る。また、部活動の部長・主将歴やスポーツ系部活動歴のある者は、「活動力」に優れ、生徒会活動の経験者は「持久力」に秀でていることがうかがわれる。

一方、後期入学者は、5%で有意な差がみられなかった。10%水準では、英検取得者の「創造性」、理系部活動や文化系部活動の経験者の「統率力」などにおいて、有為な結果がみられた。

「特性データ」に示される資質・特性は、従来の追跡調査等からも、学生の学修や活躍の方向性のある程度基礎づけていることが確認されている。前期日程の結果より、上記の各項目に関する調査書情報の読み解きを通じて、大学教育の中で伸長・補強していくべき強みと課題を見極めることができる可能性がある。

表2 前期日程：分散分析表（p値の上位3項目）

(創造性)					
要因	自由度	平方和	平均平方	F値	P値
文化系部活動	1	4.3874	4.3874	4.9686	0.0263*
残差	414	365.5718	0.8830		
全体	415	369.9591			
理系部活動	1	2.4819	2.4819	2.7960	0.0953
残差	414	367.4773	0.8876		
全体	415	369.9591			
スポーツ系部活動	1	1.4640	1.4640	1.6448	0.2004
残差	414	368.4951	0.8901		
全体	415	369.9591			

(活動力)					
要因	自由度	平方和	平均平方	F値	P値
部長・主将等	1	7.1667	7.1667	10.2071	0.0015*
残差	414	290.6795	0.7021		
全体	415	297.8462			
スポーツ系部活動	1	4.5076	4.5076	6.3617	0.0120*
残差	414	293.3386	0.7086		
全体	415	297.8462			
文化系部活動	1	3.5234	3.5234	4.9561	0.0265★
残差	414	294.3228	0.7109		
全体	415	297.8462			

* 活動等の実績のある方が、実績が無い場合に比べて、特性傾向が有意に強い場合
★ 活動等の実績の無い方が、実績がある場合に比べて、特性傾向が有意に強い場合

表2 前期日程：分散分析表(続) (p 値の上位3項目)

(積極性)					
要因	自由度	平方和	平均平方	F値	P値
理系部活動	1	7.2314	7.2314	8.0952	0.0047★
残差	414	369.8239	0.8933		
全体	415	377.0553			
部長・主将等	1	0.9752	0.9752	1.0736	0.3007
残差	414	376.0801	0.9084		
全体	415	377.0553			
数検取得	1	0.9264	0.9264	1.0197	0.3132
残差	414	376.1289	0.9085		
全体	415	377.0553			

(社交度)					
要因	自由度	平方和	平均平方	F値	P値
理系部活動	1	13.1845	13.1845	10.7522	0.0011★
残差	414	507.6520	1.2262		
全体	415	520.8365			
スポーツ系部活動	1	9.2100	9.2100	7.4526	0.0066*
残差	414	511.6265	1.2358		
全体	415	520.8365			
文化系部活動	1	7.4592	7.4592	6.0153	0.0146★
残差	414	513.3773	1.2400		
全体	415	520.8365			

(統率力)					
要因	自由度	平方和	平均平方	F値	P値
理系部活動	1	9.2783	9.2783	8.3214	0.0041★
残差	414	461.6039	1.1150		
全体	415	470.8822			
文化系部活動	1	6.1052	6.1052	5.4382	0.0202★
残差	414	464.7770	1.1227		
全体	415	470.8822			
スポーツ系部活動	1	5.6542	5.6542	5.0316	0.0254*
残差	414	465.2280	1.1237		
全体	415	470.8822			

(思考力)					
要因	自由度	平方和	平均平方	F値	P値
スポーツ系部活動	1	8.6724	8.6724	9.7999	0.0019★
残差	414	366.3661	0.8849		
全体	415	375.0385			
部活動	1	4.8694	4.8694	5.4460	0.0201★
残差	414	370.1691	0.8941		
全体	415	375.0385			
生徒会	1	1.3149	1.3149	1.4566	0.2282
残差	414	373.7236	0.9027		
全体	415	375.0385			

(持久力)					
要因	自由度	平方和	平均平方	F値	P値
生徒会	1	2.1986	2.1986	5.1263	0.0241*
残差	414	177.5610	0.4289		
全体	415	179.7596			
数検取得	1	1.3341	1.3341	3.0954	0.0793
残差	414	178.4256	0.4310		
全体	415	179.7596			
部長・主将等	1	1.1002	1.1002	2.5494	0.1111
残差	414	178.6594	0.4315		
全体	415	179.7596			

(協調性)					
要因	自由度	平方和	平均平方	F値	P値
英検取得	1	1.7395	1.7395	3.0807	0.0800
残差	414	233.7605	0.5646		
全体	415	235.5000			
部長・主将等	1	0.9575	0.9575	1.6902	0.1943
残差	414	234.5425	0.5665		
全体	415	235.5000			
理系部活動	1	0.9386	0.9386	1.6567	0.1988
残差	414	234.5614	0.5666		
全体	415	235.5000			

* 活動等の実績のある方が、実績が無い場合に比べて、特性傾向が有意に強い場合
 ★ 活動等の実績の無い方が、実績がある場合に比べて、特性傾向が有意に強い場合

表3 後期日程：分散分析表 (p 値の上位3項目)

(創造性)					
要因	自由度	平方和	平均平方	F値	P値
英検取得	1	2.72791	2.72791	3.2848	0.0713
残差	220	182.70001	0.83045		
全体	221	185.42793			
スポーツ系部活動	1	2.12288	2.12288	2.5478	0.1119
残差	220	183.30505	0.8332		
全体	221	185.42793			
文化系部活動	1	0.73326	0.73326	0.8734	0.3510
残差	220	184.69466	0.839521		
全体	221	185.42793			

(活動力)					
要因	自由度	平方和	平均平方	F値	P値
英検取得	1	2.8765	2.8765	3.7409	0.0544
残差	220	169.1641	0.7689		
全体	221	172.0405			
文化系部活動	1	2.3565	2.3565	3.0553	0.0819
残差	220	169.6840	0.7713		
全体	221	172.0405			
部長・主将等	1	1.4286	1.4286	1.8422	0.1761
残差	220	170.6119	0.7755		
全体	221	172.0405			

(積極性)					
要因	自由度	平方和	平均平方	F値	P値
理系部活動	1	3.2913	3.2913	3.1702	0.0764
残差	220	228.4069	1.0382		
全体	221	231.6982			
生徒会	1	1.4673	1.4673	1.402	0.2377
残差	220	230.2310	1.0465		
全体	221	231.6982			
スポーツ系部活動	1	1.3604	1.3604	1.2993	0.2556
残差	220	230.3378	1.0470		
全体	221	231.6982			

(社交度)					
要因	自由度	平方和	平均平方	F値	P値
文化系部活動	1	3.9190	3.9190	3.0107	0.0841
残差	220	286.3738	1.3017		
全体	221	290.2928			
部活動	1	3.6907	3.6907	2.833	0.0938
残差	220	286.6021	1.3027		
全体	221	290.2928			
理系部活動	1	2.3565	2.3565	1.8005	0.181
残差	220	287.9363	1.3088		
全体	221	290.2928			

(統率力)					
要因	自由度	平方和	平均平方	F値	P値
理系部活動	1	3.7397	3.7397	3.2535	0.0726
残差	220	252.8775	1.1494		
全体	221	256.6171			
文化系部活動	1	3.1781	3.1781	2.7588	0.0981
残差	220	253.4390	1.1520		
全体	221	256.6171			
部長・主将等	1	1.7691	1.7691	1.5272	0.2178
残差	220	254.8480	1.1584		
全体	221	256.6171			

(思考力)					
要因	自由度	平方和	平均平方	F値	P値
数検取得	1	0.7796	0.7796	0.9282	0.3364
残差	220	184.7700	0.8399		
全体	221	185.5496			
スポーツ系部活動	1	0.6151	0.6151	0.7317	0.3933
残差	220	184.9345	0.8406		
全体	221	185.5496			
生徒会	1	0.5329	0.5329	0.6336	0.4269
残差	220	185.0167	0.8410		
全体	221	185.5496			

表 3 後期日程：分散分析表(続) (p 値の上位 3 項目)
(持久力)

要因	自由度	平方和	平均平方	F 値	P 値
英検取得	1	0.7407	0.7407	1.766	0.1853
残差	220	92.2728	0.4194		
全体	221	93.0135			
部活動	1	0.3282	0.3282	0.779	0.3784
残差	220	92.6853	0.4213		
全体	221	93.0135			
スポーツ系部活動	1	0.2729	0.2729	0.6474	0.4219
残差	220	92.7406	0.4215		
全体	221	93.0135			

(協調性)

要因	自由度	平方和	平均平方	F 値	P 値
文化系部活動	1	1.8027	1.8027	3.1936	0.0753
残差	220	124.1838	0.5645		
全体	221	125.9865			
理系部活動	1	1.6450	1.6450	2.9105	0.0894
残差	220	124.3415	0.5652		
全体	221	125.9865			
部活動	1	1.4803	1.4803	2.6157	0.1072
残差	220	124.5062	0.5659		
全体	221	125.9865			

5.2 学習や活動における特徴等と能力・適性、科学的興味・関心及び学力と、学生の特性との関係

本節では、4 章で整理した、学習や活動における特徴・姿勢等と優れた能力・適性、科学的興味・関心、学力等に注目して、分析を行った。表 1 の整理に基づき、調査書の記載内容から、裏付けや根拠も参照しつつ、項目・キーワードを抽出し、該当する資質・能力・適性等を有する志願者であるか否かの二値化を進めた。その上で、前節と同様、学生の各「特性データ」について、各水準の平均値の差の検定を行った。

ここでは、多面的・総合的評価とのつながりや、理工系大学としての本学の教育や学生と関連を考慮し、(ア)主体性、(イ)リーダーシップ、(ウ)協調性もしくは社会性・社交性、(エ)思考力、(オ)持続力・持久力、(カ)コミュニケーション能力・表現力、情報収集力もしくは判断力、(キ)情報・理工学分野や関連する教科科目への興味・関心の 7 項目に着目した。

入試区分ごとの分析結果を、表 4、表 5 に示す。

前期では、例えば、調査書の情報からリーダーシップに優れるとされた者は、そうでない者に比べて、「統率力」において、有意に強い特性がうかがわれる。同様に、リーダーシップに優れる者は、「積極性」「社交度」において強みが見出される。また、専門分野や関連科目に興味関心を示す者は、「創造性」において強みが見出された。後期では、コミュニケーション能力や判断力等に優れる者は、「活動力」や「持久力」において強みがあることがわかる。

項目数は限られるものの、有意な差が見出された部分では、調査書から読み解かれる志願者の能力や適性が、大学入学後の学修や活動を支える特性と結びついていることが明らかとなった。

リーダーシップの素養は統率力や積極性へとつながり、専門分野・科目への強い関心は創造性に寄与し、日々の学修や研究室での活動等に大きな役割を果たしている。また、コミュニケーション能力は幅広い活動を支え、本学が教育研究の柱に据える「総合コミュニケーション科学」の基礎的素養としても重要である。

更なる検討と、調査書の記載充実、記入方法のルール整備、アドミッション・ポリシーの明確化等が必要であるものの、上記に関する情報を読み解くことにより、大学教育に臨む際の強みと課題を見極められる可能性がある。入学者の多様性に配慮する形で、入学前教育や初年次教育の改善に繋げることも考えられる。

また、志願者本人に、負担の少ない形で書面等の作成・提出を求め、調査書を補強することも一案である。調査書の内容を「得点化」する場合は、調査書と本人申告内容との整合性の確認や齟齬解消が大きな課題・負担となり得るが、得点化を行わないのであれば、不整合がある場合でも、当該特性はあまり強いものではない(評価が分かれる)と看做して取り扱うことで対応できると考えられる。

表 4 前期日程：分散分析表 (p 値の上位 3 項目)

(創造性)					
要因	自由度	平方和	平均平方	F 値	P 値
専門分野・科目への関心	1	4.9365	4.9365	5.5988	0.0184*
残差	414	365.0227	0.8817		
全体	415	369.9591			
主体性	1	2.9118	2.9118	3.2842	0.0707
残差	414	367.0474	0.8866		
全体	415	369.9591			
思考力	1	0.9843	0.9843	1.1044	0.2939
残差	414	368.9748	0.8912		
全体	415	369.9591			

(活動力)					
要因	自由度	平方和	平均平方	F 値	P 値
リーダーシップ	1	2.6445	2.6445	3.7087	0.0548
残差	414	295.2017	0.7131		
全体	415	297.8462			
主体性	1	2.0729	2.0729	2.9014	0.0893
残差	414	295.7733	0.7144		
全体	415	297.8462			
思考力	1	0.1818	0.1818	0.2528	0.6154
残差	414	297.6644	0.7190		
全体	415	297.8462			

(積極性)					
要因	自由度	平方和	平均平方	F 値	P 値
リーダーシップ	1	4.0172	4.0172	4.4583	0.0353*
残差	414	373.0381	0.9011		
全体	415	377.0553			
思考力	1	0.3746	0.3746	0.4118	0.5214
残差	414	376.6807	0.9099		
全体	415	377.0553			
持続力・持久力	1	0.0533	0.0533	0.0585	0.8090
残差	414	377.0020	0.9106		
全体	415	377.0553			

(社交度)					
要因	自由度	平方和	平均平方	F 値	P 値
リーダーシップ	1	5.8988	5.8988	4.7426	0.0300*
残差	414	514.9377	1.2438		
全体	415	520.8365			
思考力	1	2.2948	2.2948	1.8321	0.1766
残差	414	518.5418	1.2525		
全体	415	520.8365			
協調性・社会性	1	1.0455	1.0455	0.8327	0.3620
残差	414	519.7910	1.2555		
全体	415	520.8365			

* 活動等の実績のある方が、実績が無い場合に比べて、特性傾向が有意に強い場合

表4 前期日程：分散分析表(続) (p 値の上位3項目)

(統率力)					
要因	自由度	平方和	平均平方	F値	P値
リーダーシップ	1	9.0800	9.0800	8.1401	0.0045*
残差	414	461.8023	1.1155		
全体	415	470.8822			
持続力・持久力	1	1.3766	1.3766	1.2139	0.2712
残差	414	469.5056	1.1341		
全体	415	470.8822			
思考力	1	0.6442	0.6442	0.5672	0.4518
残差	414	470.2380	1.1358		
全体	415	470.8822			

(思考力)					
要因	自由度	平方和	平均平方	F値	P値
専門分野・科目への関心	1	2.0114	2.0114	2.2323	0.1359
残差	414	373.0271	0.9010		
全体	415	345.0385			
思考力	1	1.6526	1.6526	1.8323	0.1766
残差	414	373.3859	0.9019		
全体	415	375.0385			
主体性	1	1.2930	1.2930	1.4323	0.2321
残差	414	373.7455	0.9028		
全体	415	375.0385			

(持久力)					
要因	自由度	平方和	平均平方	F値	P値
リーダーシップ	1	3.6987	3.6987	8.6973	0.0034★
残差	414	176.0609	0.4253		
全体	415	179.7596			
協調性・社会性	1	0.7147	0.7147	1.6525	0.1993
残差	414	179.0449	0.4325		
全体	415	179.7596			
持続力・持久力	1	0.2076	0.2076	0.4786	0.4895
残差	414	179.5521	0.4337		
全体	415	179.7596			

(協調性)					
要因	自由度	平方和	平均平方	F値	P値
主体性	1	1.2271	1.2271	2.1684	0.1416
残差	414	234.2730	0.5659		
全体	415	235.5000			
持続力・持久力	1	0.3479	0.3479	0.6126	0.4343
残差	414	235.1521	0.5680		
全体	415	235.5000			
コミュニケーション能力等	1	0.1456	0.1456	0.2562	0.6130
残差	414	235.3544	0.5685		
全体	415	235.5000			

* 活動等の実績のある方が、実績が無い場合に比べて、特性傾向が有意に強い場合
 ★ 活動等の実績の無い方が、実績がある場合に比べて、特性傾向が有意に強い場合

表5 後期日程：分散分析表 (p 値の上位3項目)

(創造性)					
要因	自由度	平方和	平均平方	F値	P値
専門分野・科目への関心	1	3.7711	3.7711	4.5671	0.0337★
残差	220	181.6568	0.8257		
全体	221	185.4279			
主体性	1	2.0215	2.0215	2.4249	0.1209
残差	220	183.4064	0.8337		
全体	221	185.4279			
持続力・持久力	1	0.8499	0.8499	1.013	0.3153
残差	220	184.5780	0.8390		
全体	221	185.4279			

(活動力)					
要因	自由度	平方和	平均平方	F値	P値
コミュニケーション能力等	1	4.1375	4.1375	5.4213	0.0208*
残差	220	167.9030	0.7632		
全体	221	172.0405			
思考力	1	1.9961	1.9961	2.5825	0.1095
残差	220	170.0444	0.7729		
全体	221	172.0405			
協調性・社会性	1	0.6272	0.6272	0.8049	0.3706
残差	220	171.4134	0.7792		
全体	221	172.0405			

* 活動等の実績のある方が、実績が無い場合に比べて、特性傾向が有意に強い場合
 ★ 活動等の実績の無い方が、実績がある場合に比べて、特性傾向が有意に強い場合

表5 後期日程：分散分析表(続) (p 値の上位3項目)

(積極性)					
要因	自由度	平方和	平均平方	F値	P値
主体性	1	3.5247	3.5247	3.3984	0.0666
残差	220	228.1735	1.0372		
全体	221	231.6982			
思考力	1	1.8953	1.8953	1.8145	0.1794
残差	220	229.8029	1.0446		
全体	221	231.6982			
持続力・持久力	1	1.2477	1.2477	1.1911	0.2763
残差	220	230.4506	1.0475		
全体	221	231.6982			

(社交度)					
要因	自由度	平方和	平均平方	F値	P値
リーダーシップ	1	3.7092	3.7092	2.8474	0.0929
残差	220	286.5836	1.3027		
全体	221	290.2928			
コミュニケーション能力等	1	2.9563	2.9563	2.2635	0.1339
残差	220	287.3365	1.3061		
全体	221	290.2928			
主体性	1	0.3111	0.3111	0.236	0.6276
残差	220	289.9817	1.3181		
全体	221	290.2928			

(統率力)					
要因	自由度	平方和	平均平方	F値	P値
思考力	1	1.4828	1.4828	1.2786	0.2594
残差	220	255.1343	1.1597		
全体	221	256.6171			
協調性・社会性	1	1.3344	1.3344	1.15	0.2847
残差	220	255.2827	1.1604		
全体	221	256.6171			
主体性	1	0.5806	0.5806	0.4989	0.4807
残差	220	256.0365	1.1638		
全体	221	256.6171			

(思考力)					
要因	自由度	平方和	平均平方	F値	P値
協調性・社会性	1	2.5154	2.5154	3.0234	0.0835
残差	220	183.0342	0.8320		
全体	221	185.5496			
リーダーシップ	1	2.0268	2.0268	2.4297	0.1205
残差	220	183.5227	0.8342		
全体	221	185.5496			
思考力	1	1.5631	1.5631	1.869	0.1730
残差	220	183.9865	0.8363		
全体	221	185.5496			

(持久力)					
要因	自由度	平方和	平均平方	F値	P値
コミュニケーション能力等	1	2.6100	2.6101	6.3516	0.0124*
残差	220	90.4035	0.4109		
全体	221	93.0135			
思考力	1	0.8357	0.8357	1.9946	0.1593
残差	220	92.1778	0.4190		
全体	221	93.0135			
リーダーシップ	1	0.6525	0.6525	1.5543	0.2138
残差	220	92.3610	0.4198		
全体	221	93.0135			

(協調性)					
要因	自由度	平方和	平均平方	F値	P値
思考力	1	4.5913	4.5913	8.3207	0.0043★
残差	220	121.3952	0.5518		
全体	221	125.9865			
主体性	1	1.6395	1.6395	2.9006	0.0900
残差	220	124.3470	0.5652		
全体	221	125.9865			
リーダーシップ	1	0.6493	0.6493	1.1397	0.2869
残差	220	125.3372	0.5697		
全体	221	125.9865			

* 活動等の実績のある方が、実績が無い場合に比べて、特性傾向が有意に強い場合
 ★ 活動等の実績の無い方が、実績がある場合に比べて、特性傾向が有意に強い場合

6 まとめ

本研究では、近年の学部昼間コース学生を対象に、調査書を分析した上で、その記載内容と大学入学後に測定された各学生の特性との関係の分析を行った。

(i) 4章では、個々の調査書の記載項目やキーワードを7つのカテゴリーに整理・大別し、分析した。

(ii) 5章では、調査書記載の内容と、大学入学後に確認された各学生の特性との関係性について分析した。1節では、部活動、検定・資格取得、表彰・受賞等の実績を説明変数として、入学後に測定された学生の特性との関係を検討した。2節では、多面的・総合的評価との関連や、理工系大学としての本学教育等を踏まえつつ、7つの項目・能力について分析を行った。

更なる検討を要するものの、上記の分析・検討を通じて、調査書から読み解かれる志願者の能力や適性が、大学入学後の学修や活動を支える特性と結びついており、筆記試験のみによる測定が難しい主体性や協働性等の評価において、調査書を活用できる可能性があることが明らかとなった。大学教育の中で伸長・補強すべき強みと課題を見極め、入学前後の教育の改善に繋げていくことも考えられる。

多面的・総合的評価の推進に向け、調査書に記載されるべき内容、記入方法、評価基準、活用のあり方等について、高等学校・大学双方で更に認識と理解の共有を深めていくことが重要である。

参考文献

中央教育審議会(2014). 「新しい時代にふさわしい
高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、
大学入学者選抜の一体的改革について～すべての
若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるた
めに～(答申)」
<http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo_0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2015/01/14/1354191.pdf> (2018年2月1日)

平井佑樹(2018). 「平成33年度入試以降の一般選抜
における調査書の活用に関する一考察」『大学入試
研究ジャーナル』, Vol. 28, p. 201-207.

石井秀宗・橘春菜・永野拓矢(2018). 「推薦書の記
載内容と任意提出書類等との関連性の検討」『大
学入試研究ジャーナル』, Vol. 28, p. 41-46.

井上敏憲・中村裕行・前村哲史・植野美彦・立岡裕
士・岡本崇宅・大塚智子(2017). 「四国地区国立
5大学共通のインターネット出願と多面的・総合
的評価への取り組み」『大学入試研究ジャーナル』,
Vol. 27, p. 91-96.

川嶋太津夫・山下仁司・石倉佑季子・井ノ上憲司
(2017). 「多面的・総合的入試の日本モデルの検
討—海外事例と日本の文脈を踏まえて—」平成29
年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会(第
12回)研究発表予稿集, p. 1-6.

高大接続システム改革会議(2016). 「最終報告」
<http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/06/02/1369232_01_2.pdf> (2018年2月1日)

文部科学省(2017). 「高大接続改革の実施方針等の
策定について(平成29年7月13日)」

<http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/29/07/1388131.htm> (2017年7月13日)

西郡大・園田泰正・兒玉浩明(2018). 「一般入試にお
ける「主体性等」評価に向けた評価支援システムの開
発」平成30年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会
大会(第13回)研究発表予稿集, p. 1-8.

大久保敦(2008). 「高校調査書及びアドミッショ
ン・ポリシーで重視される内容の比較—高校調査
書『指導上参考になる諸事項』に記載されている
内容の分析から—」『大学入試研究ジャーナル』,
Vol. 18, p. 31-36.

JAPAN e-Portfolio(2017). 「文部科学省大学入学者
選抜改革推進委託事業(主体性等分野)」
<<https://jep.jp>> (2018年5月1日)

東京大学. 平成30年度推薦入試学生募集要項
<<https://www.u-okyo.ac.jp/content/400065221.pdf>>
(2017年10月30日)

椿美智子・三宅貴也・富永倫彦・桐本哲郎・西村幸
(2015). 「理工系大学における在学生の学力・成
績とキャリアデータによる追跡調査・分析の試み」
『大学入試研究ジャーナル』, Vol. 25, p. 29-36.

脇田貴文・北原聡・伊藤博介・井村誠・中田隆
(2018). 「大学入学者選抜における調査書活用
に向けた課題(2)—調査書記載事項の活用可能性
—」平成30年度全国大学入学者選抜研究連絡協
議会大会(第13回)研究発表予稿集, p. 22-27.

早稲田大学. 「2021年度一般選抜(現行の一般入試)
および大学入学共通テスト(現行の大学入試セン
ター試験)を利用した入試の改革」

<[https://www.waseda.jp/inst/admission/assets/up
loads/2015/06/2021ad_change.pdf](https://www.waseda.jp/inst/admission/assets/uploads/2015/06/2021ad_change.pdf)> (2018年6月1日)

山路浩夫・椿美智子・高谷真弓(2017). 「多面的・
総合的評価の実現に向けた追跡調査・分析の試み」
『大学入試研究ジャーナル』, Vol. 27, p. 15-22.